

一般質問

財政健全化を

見据えた市政運営を！

(自民クラブ)

問

合併後10年間は特例で旧2市2町分の地方交付税が交付されていたが、今後、約24億1千万円が削減される。また、各会計決算の実質収支の黒字幅が年々減少しており、将来的には赤字決算の危険性もあることから、今後の地方交付税の削減を踏まえ、健全な財政運営を堅持することが求められる。

財政難が予想される中、公民館に非常勤館長や正規職員を配置しようとしているが、人件費のアップが想定される職員配置をなぜ行うのか。

答 今後、地方交付税の削減が想定される中、適正な財政運営を行わなければならぬ



西条公民館

編・整理や事業実施方法の簡素合理化を図り、総合支所については、将来的には本庁方式を目指す必要があるが、窓口サービスなど市民に直結する業務は引き続き維持し、必要な部門は機能強化を図りたい。

更に、市立保育園の民営化について、国の動きを注視しながら、多様化する保育ニーズに応え、市民サービスの向上に向けて総合的に検討したい。

どう取り組む！

特別支援教育

(新政クラブ)

問

発達障害は、特に幼少期や小学校低学年時にその兆候が現れ、市内小・中学校では、その対応として特別支援学級などを設置している。特別支援学級などの設置状況及び取組の内容について問う。

また、ウイングサポートセン

ターは、平成23年11月1日に開設して以来、多くのかたが利用しており、数名の相談員で月平均約200件の相談を受けている状況である。今後、同様の施設を増やす必要性があると考えるが、同センターの今後の方向性につ

いては、どのように考えているのか。

答 現在、市内の小・中学校には、特別支援学級85学級が設置されており、また、通級指導教室では、知的・肢体不自由などの障害を持つ児童・生徒に対し、学習指導要領に沿った教育を行うとともに、

障害の状態や程度に応じて特別支援学校学習指導要領を参考しながら、適切な教育課程の編成や、きめ細やかな指導・支援、

導を行うほか、各教科の補充を害による学習上又は生活上の困難の改善・克服を目的とした自立活動や、一人一人に応じた指導を行っており、

また、懸命に取り組んでいる。

また、特別支援教育は、幼稚園・保育園、小・中・高等学校が連携し、教育相談や入学前の会議において情報を共有し対応している。

ウイングサポートセンターが

啓発を行うことで特別支援教育についての理解が深まり、同センターの利用者数は増加傾向にある。利用者のニーズに対応するため、今後、相談員の研修参加や専門家の人材配置などを図り、同センター機能の充実を図るとともに、市内西部地域への開設についても検討する予定である。



ウイングサポートセンター

